○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤　麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。　〔６番　伊藤　麗君登壇〕

○６番（伊藤　麗君）

清新クラブ、伊藤　麗です。

事前に提出いたしました通告書に基づいて、１回目の質問を行います。

１、人口減少時代における新しい地域づくりについて。

人口減少時代の中で、地域を残していく方法を行政も市民も本気で考えなければなりません。多様性への理解と多様化した住民のニーズをすくい上げては取り入れる柔軟な地域づくりに取り組むことが、喫緊の課題であると考えます。糸魚川市では、地域づくりに不可欠な「地域の合意形成」を完全に地域に任せるスタンスですが、時には行政が正しい情報を住民に提示して、リードする場面があってもいいのではないか、と考えます。

(1) 地域づくりにおける人的資源の確保、定着に向けて市としての取組と成果を伺います。

(2) 人口減少時代に即した公民館と生涯学習センターのそれぞれの役割と今後の在り方について、市の考えを伺います。

(3) 市内の地域づくりプランの取組状況と、助成期間が終わっても持続可能な形で自立して存続している事例があるか伺います。

２、子育て支援について。

国では、こども家庭庁設置に向けて、「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」（令和３年１２月２１日閣議決定）に基づき、令和４年２月２５日に「こども家庭庁設置法案」及び「こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律案」が閣議決定されました。

全ての子供が、自立した個人として、平等に、健やかで、幸せな状態で成長することができる社会の実現を目指し、子供や子育て当事者の視点に立った政策立案や、子供や家庭の抱える様々な課題に対する包括的支援を行うことを目的として、令和５年４月１日にこども家庭庁が設置される見通しです。

当市においても、子供たちが糸魚川で安心・安全に育っていけるように、こども家庭庁設置に先立ってでも積極的に支援を行っていただきたいとの思いから、以下を質問いたします。

(1) 糸魚川総合病院産婦人科存続に向けて取り組んでいることと、産前産後のケアについての今後の課題は何と捉えているか伺います。

(2) 働きながら育てる家庭への支援について、糸魚川市において認識している課題は何か伺います。

(3) 令和２年度児童相談件数の増加理由についての分析と、その後の経過について伺います。

以上、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、地域づくりに関わる人材の交流や育成を図り、人材確保に努めているところであります。

また、地域おこし協力隊や集落支援員による支援を行う中で、任期終了後も定住する協力隊員がいるなど、一定の成果があると考えております。

２点目につきましては、生涯学習センターは、市民の誰もが生涯学習を行うことができる施設として、公民館は、社会教育活動や地域づくりなど、様々な地域の活動を担う拠点として捉えております。

生涯学習センターにつきましては、今後も基本的な方向性は変わらないと考えておりますが、公民館につきましては、これまで以上に地域住民自らが考え、実践する場を目指してまいります。

３点目につきましては、市内１４地区で地域づくりプランが策定されております。５年間の、この助成期間終了後も活動は継続されており、市としても活動への支援を行っております。

２番目の１点目につきましては、糸魚川総合病院と連携し、引き続き富山大学へ医師派遣をいただくよう要望を行っております。

また、産前産後のケアについては、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援が重要であると捉えております。

２点目につきましては、多様化する保育需要への対応が課題と捉えております。

３点目につきましては、関係機関等に相談窓口の周知が図られ、適切な相談につながったためと分析いたしております。

また、相談があったものにつきましては、関係機関と連携し、支援しております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

それでは、番号１の（１）について、２回目の質問を行います。

地域おこし協力隊と集落支援員というワードが出てまいりましたけれども、地域残しのためにミッションの異なる人たちが市内に、現在も何名かいらっしゃいます。特に地域おこし協力隊については、個々のミッションに違いが大きく、地域の人も協力隊本人も行政が求める成果やミッションが何なのか、よくよく理解してないことがあるのではないかなというふうに考えております。一定の定着においては、一定の成果があるということだったんですけれども、何人の方が今までの間に地域おこし協力隊として糸魚川市に入ってきていて、何人の方が今も、ミッションの期間が終わった後も住み続けていらっしゃるのか等、踏まえてお伺いしたいんですけれども、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

地域おこし協力隊につきましては、地域、それから地方公共団体、それから地域おこし協力隊本人の三方が、それぞれによいという取組であるべきだというふうに考えておりますし、総務省の指針でもそのようになってございます。

そのような中で糸魚川市におきましては、現在までに１０名の協力隊が在籍してきております。その中で退任した協力隊員ということでいきますと、６名が退任されて、そのうち３名が定住をしていただいてるといった状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今、地域おこし協力隊について、私もよく理解したいなという思いで取り上げさせていただいてるんですけれども、コロナの影響もあって、若い世代のローカル志向の高まりが注目されていると思います。実際にＵＩターンにつなげるには、ただ雇用や住宅の確保などの大きな壁があって、なかなか若い人たちは地方に興味があっても、なかなか踏ん切りがつかなくて、実際にＵＩターンにはつながらないという実情があると思います。その上で、地域おこし協力隊の制度は、ローカル志向の若者にとっても、とても魅力的で、住宅の支援などもあると思うので、地域においても可能性が大いにある事業と捉えております。

そこで、今、地域おこし協力隊のミッションについてお伺いしたんですけれども、待遇だったりだとか、後は財源がどこかについても教えてください。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

ミッションといたしまして、地域課題の解決のために必要な活動をミッションとして活動いただくといったところがメインのところになってまいります。

その待遇といたしましては、市のほうの会計年度任用職員といたしまして、任用するのが主となっております。月給制で、期末手当、時間外勤務手当等を支給するほか、年次有給休暇、社会保険等の制度も整備、活用もしております。

その財源といたしましては、国の財政支援がございまして、特別交付税として、協力隊１名につき４８０万円を上限として交付されるといったものになってございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

財源が国からということですので、人を地域の外から迎え入れて、財政的にも市税を傷つけるものではなくて、非常にいい取組だと思っております。地域課題において、様々なミッションが課されているということなんですけれども、糸魚川市においてもミッションというか課題はすごくたくさんあると思います。

そこで、地域おこし協力隊、今まで１０名在籍していただいたとお答えいただいたんですけれども、もっとどんどん募集したらいいんじゃないかなというふうに思うんですけれども、募集の人数に制限などはあるのかお伺いしたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

地域おこし協力隊を募集するのに当たっての人数制限はございません。

ただ、最初にも申し上げましたとおり、導入の効果といたしまして、協力隊、それから地域、それから地方公共団体、三方よしといった取組が大事であるというふうには考えてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

この人数の制限がないというのを聞いて、私も様々な分野で人手不足が叫ばれておりますので、どんどん担い手として入れていったらいいんではないかというふうに、中村課長とお話しさせていただいたんですが、今ご説明いただいたように、単なる労働力として来てもらうというのではなくて、その課題を解決するために来てもらうという意図が必要だという理解でしているんですけれども、そのミッション、来てもらう人のミッションを各課で抽出したり、検討したりする場面があると思うんですけれども、地域おこし協力隊を受け入れるために相当な準備というか労力が必要なんでしょうか。もしもっと簡単にできるんであれば、募集自体ももっと増やしていけばいいんじゃないかなというふうに単純に思ったもので、その部分、お聞かせいただきたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

募集可能な人数に制限はないということでお答えさせていただきましたが、地区ですとか、私ども市、それから地区の中においても、例えば受入れ団体があったりいたしますので、そういった方々の意向を踏まえて募集するといったところが大事になってまいります。外部から人材を求めて

活動いただくということでございますので、本人と受入れ側双方のマッチングというのがとても大切になってきておりますので、そこのところで私どもは、今汗をかかせていただいているといいますか、慎重に取り組ませていただいているところでございます。

国のほうの地域おこし協力隊の大きな目的としましては、やはり２つございまして、都市部からの地方への移住を促すということと、それから地域おこし協力隊本人のスキルを生かして、地域づくり、地域おこしをしていただくといったことになってございますけれども、そういったところがうまくマッチングするような、事前の取組というか、そこを大事にして、目的の一つでもある定住につなげていきたいというふうな思いでやっているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今、課長のご答弁の中にも定住につなげていくというワードがあったんですけれども、その中でマッチングの精度を高めて、万が一、地域おこし協力隊の方と地域の皆さんとの思いがうまくかみ合っていないような場合は、行政が間に入って、例えば派遣先を変えたりだとか、柔軟に対応を見直すということは、１回決まったミッションで受入れをしているんですけれども、派遣の場所を変えたりとか、そういう相談というのは柔軟に可能なものなんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

最初にも申し上げましたが、地域、それから協力隊、それから自治体、三方よしといったことでございますので、そのミッションを決める際に、その３名がよくなるような形で考えて募集をさせていただくということが大前提になってまいります。

したがいまして、極力ミッションを変えないで取り組んでいるといったところが大切にしている部分でもございます。ただ、私どものほうで、例えば地域と協力隊とでなかなかうまくいかないというような部分がありますれば、間に入らせていただいたり、また少し専門家の知見や何かも頂戴しながら対応はさせていただいてるというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

私から１つ提案なんですけれども、こういう人も地域おこし協力隊として、ぜひ迎え入れてほしいという提案の一つです。

ＳＮＳのフォロワーが多い人、１万人以上と私、取りあえずで書いてはいるんですが、１万人以

上と言わずに、もう既存のファンを持っているような方を募集してみるというのは、市としていかがでしょうか。地域を活性させるというときに、地元の人たちだけではなくて、県内外の人にも広く地域のことを発信してもらえることが、今とても有効な手段の一つだと思っています。地域おこし協力隊として糸魚川市に入ってから新しくアカウントを始めていただくのではなくて、既にフォロワーのついたアカウント運用をしていらっしゃる人に入ってもらって、市内での取組を広く発信していただくっていう、そういうアイデアが私の中にあるんですが、それについてお考え、お伺いしたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

今ほどのご提案のように苦手といいますか、糸魚川市でもそういうところちょっと大事なんではないかという部分に対して協力隊を招き入れる、招じ入れるということは非常に大切なことかとは思っております。

ただ、最初のほうでもちょっと申し上げましたとおり、財源のほうが協力隊１人につき４８０万円という金額でもございます。そういったところで可能かどうかという部分であったり、また、私どもも定着に向けて活動していただきたいといった思いがございますので、３年間だけ活動していただければよいといったところではなくて、３年後も定住していただくためには、その方にお支払いする賃金なりをその後どのようにして稼いでいくのか。ご本人から稼いでいただくというのが建前になってまいりますので、そのようなところをどうしていくのかというところも、併せて考えて募集していくといったところが大切かと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。　〔総務部長　渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員からの提案という形で受け止めさせていただきますけども、やはり地域おこし協力隊、ミッションということも言われてますが、やはり糸魚川市と地元、それから来られる方、やっぱりそこら辺が合致しなきゃ、一番大事ですね。その上で協力隊ですので、ただ単なる労働力ではなくて、何を地域で活躍していただけるのか、まずそこが大事だと、第一義だと思います。その上で、今議員が言われた発信力の強さ、これも非常に大事だと思います。どうしてもここに住んでいる方というのは、どうしてもこういった、もう生まれたときからの見方になりますので、よそからの目で見るとやっぱり角度が違ってまいります。そういった強みを持つ方というのは、非常に有効だというふうに私は思います。

○議長（松尾徹郎君）

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

理解いたしました。

そんな中で、やっぱりせっかく来てくれた地域おこし協力隊の皆さんです。６人退任されて、３名が定住ということで行政としては、いいほうだという認識でいらっしゃるということでいいですか。おおむね定着できてるという、どうでしょう、すみません、中村課長、その辺りどうでしょう、行政としては成功していますか、定着。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

やはり定着に向けて、今数字だけを申し上げますと半分といった数字ではございますけれども、最初のうち、やはりミッションもフリーミッションというとちょっと言葉があれかもしれませんが、具体的に協力隊が何をすべきか、するべきなのかというところがなかなか分からずに、任期満了を待たずに退任するといったところもございました。その後、ミッションを明確化していく、それから着任する前に糸魚川市にお越しいただいて、例えば雪ですとかの体験をしていただく。そういった移住体験を行うことなどによって、近年は何とかこういった数字にはなってきてる状況ではありますが、議員おっしゃるようにこれでよいのかというふうに改めて聞かれますと、まだまだ定着率が低いといいますか、もっともっと定着する人が増えていったらいいなと思っておりますし、なかなかその点は、私どももちょっと力の足りない部分もございますが、難しいところだなというふうには感じているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今の答弁の中で、定着に向けての課題だったりだとかという部分も見えてまいりました。やっぱりやる気があって来た人だと思うので、地域との関係性でうまくいってない部分は、どんどん行政も間に入って、三方よしがベストだというふうに再三言っていただいておりますが、それを目指すためにも会話を大切に、当事者同士だと難しい場合は行政も間に入りながら進めていただきたいと思っております。

それでは、（２）について再質問いたします。

人口が減少し、Ｚｏｏｍなどを用いて会議ができるようになったとしましても、寄り合いや家と職場以外の居場所としての拠点は、地域に必要だと考えております。生涯学習センター、公民館、集落センターがそれに当たるので、それぞれの機能をいま一度確認したいと思います。生涯学習セ

ンターの役割と公民館の役割、それぞれと、あと集落センターとの違いについてもお伺いできればと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。　〔教育委員会生涯学習課長　穂苅　真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅　真君）

お答えいたします。

生涯学習センター、地区公民館につきましては、市長答弁でもございましたとおり、生涯学習センターについては社会教育を推進する、市民誰もが行ける施設、地区公民館につきましては、その地区の方がそこを主に使って活動をしていただける施設というふうに捉えております。

また、地区の集会所につきましては、公の施設ではございませんので、そこにつきましては、集落が設置し、維持・運営し、地区の自治活動をそこで推進するというような形で捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

市民の多様化に対応するためにも、それぞれの施設が柔軟に対応していく必要があると考えます。生涯学習センターにおいては、市民誰でも行けて、利用できるというご答弁だったんですけれども、公民館よりも多様な人の利用を想定する必要があると思います。糸魚川の町なかは、カフェやキターレもあるんですけれども、例えば能生だったり青海だったりという地域を考えると、職場とおうち以外のサードプレイス的な場所が少ないというふうに感じています。

そこで、家以外の場所で、例えば作業をしたいという人がいたとして、今だったらパソコンとか電子機器を使うと思うんですけれども、能生生涯学習センターを今、私想像しながらお話しするんですが、自由に部屋を借りずに利用できるスペースもあります。そこで作業していたときに電池が切れてしまったという場合に、充電したいと普通に思うと思うんですけれども、そのときに注意を受けてしまったという市民の方からもお声もありまして、市民の人の認識と市の行政の皆さんとの生涯学習センターの目的、設置の目的がちょっとずれてきているのではないかなというふうに考えるんですが、ニーズに合わせて運用を柔軟にしていくというお考えはありますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。　〔教育委員会生涯学習課長　穂苅　真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅　真君）

お答えします。

おっしゃるように時代とともに、いろいろニーズというのは変わっていくかと思いますので、そういうお声があれば柔軟に対応できるようにしてまいりたいと思いますが、できるものと、できないものというのは、やはりあると思いますので、そこは精査をしながら進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

できるものと、できないものをちょっとだけ詳しくお伺いしたいですけれども、例えば電池が切れて、パソコンの充電が切れてしまって、もうちょっとここで作業を続けていきたいなと思っていたときに、プラグがあって、そこに充電器を入れて、使ってもいいのかと、もしそれが駄目なのであれば、例えば職員の人に相談させていただいて、職員の人がいいですよというふうに許可を得れば使ってもいいのか、その辺り少し詳しくお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。　〔教育委員会生涯学習課長　穂苅　真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅　真君）

お答えいたします。

そういう具体的なケースというのは、今まだお答えしかねるところもあるんですが、いずれにせよ、そういうような事態になれば、そこにおります職員等にご相談いただければ、声として上がってまいりますので、今後の検討の材料にはなると思います。ですので、その都度、申し訳ありませんが、おっしゃっていただければというふうに、そんな形で対応してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

その相談された職員の方が、例えばですけど自分たちの考えてる常識とは違うからといって、市民の方を突っぱねるような対応だけはないようにお願いしたいなというふうに思います。

では、公民館の役割についても、先ほどご答弁いただきました。より地域に密着して、利用者のニーズに対応して、運営されていると思います。

私のほうにも、地域の利用者の声を聴いて、部屋が空いている場合は、親子で訪れた利用者に部屋を開放するような取組を独自で行っている公民館もあるそうです。利用者の声に柔軟に対応するいい事例だと思っております。

そのほかにもタクシーを呼んでくれとか、いろんな要望を持ち寄る市民の方がいらっしゃると思います。それに加えて社会教育、生涯学習に寄与する必要性と、ますます職員の人が対応していく業務に幅が出てきていると思います。そのいろんな市民の人の声に対応することも必要な機能の一つだと私は捉えております。

そんな中で、ちょっと（１）の人材確保のほうにも通じてくるんですけれども、公民館の職員の皆様の待遇が、若干変わったというふうに、少しだけお給料が増えたというふうにお聞きしたんですが、どういう理由で給料が上がるという決定がされたのか、その経緯、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。　〔教育委員会生涯学習課長　穂苅　真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅　真君）

お答えいたします。

公民館職員につきましては、平成２３年度に公民館制度が見直しされて、そのときから給料のほう、募集要項に昇給なしとかボーナスなしとかということが書かれていた状態のままで募集をさせていただいて、今お勤めいただいておりました。その当時と比較して、業務量、近年になりますと行政事務についても増えてまいりました。それから、地域づくり等の新しい業務というのも増えてまいりました。そういうことを鑑みまして、それと後は、地域の公民館については、管理運営委員会というのがございます。そちらのほうからも業務量が増えたことによる給与の改善をということでお声も頂いておりましたので、それに基づいて改善させていただいたというのが理由でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

これからますます、その時代とともに業務の内容も変わっていくものと思います。長年勤めていても昇給がない、今のところは昇給がない公民館の職員という職業だと思うんですけれども、ゆくゆくは、やっぱり担い手としても重要な役割を担っていただかなければいけない人たちでもあると思いますので、人材を確保するためにも、待遇の部分も見直しながら対応していただければなと考えております。

では、（３）地域づくりプランについてなんですけれども、自立可能な状態で存続している事例があるかどうかについて、詳しくご説明お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

１回目の市長答弁でも申し上げたところではございますが、独自の収入を確保している事例といたしまして、少しご紹介させていただきますと、やはり地区による費用負担と。地域づくりに向けて費用負担いただいているといったところもございますけれども、それ以外ですとアルミ缶を収集いたしまして売却したり、また、花苗を仕入れをして、販売したり、それから安く魚、魚介類を仕入れて、調理・加工して販売しているといった地区もございます。

また、ふるさと納税を財源といたしました、ふるさと活動支援事業というのがございまして、市としての補助金として支出をさせていただいてるといったところもございます。

そういったこと以外にも珍しいところでは、企業協賛、地域づくり活動に向けて協賛いただいて活動してるといったところも出てきております。当課といたしましても、補助期間が終了した後も活動ができるように、わずかではありますけれども、地域振興に関わる事業ですとか防災、福祉、健康づくりといった事業に使えるような支援をさせていただいてるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

助成期間内に、助成金が出る期間内に持続していく方法を考えて、企業から協賛をもらいながらという面もあるというお話でしたが、すばらしいと思います。大切なことだと思います。

ただ、プラン作成時点での持続可能性的な観点だったり、採算性の部分での指導が不足してるのではないかなというふうに感じるんですが、その部分はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

地域づくりプランを策定する際には、持続可能な地域づくりの取組となりますように収益事業などによって、自主財源を確保いただきながら運営する方法を地域の皆様から検討していただくよう促しながら策定いただいております。具体的には、地域づくりプランの策定の話合いの場で、独自に財源を確保する。補助金が終わった後を考えるといった言葉を使わせていただいておりますが、そういった自立に向けた取組が重要ですよというご説明をさせていただいているところでございます。

昨今では、やはり大きな事業を続けていくというのがなかなか、補助金切れてしまうと難しいところでございますので、小さく始めて大きく育てようといったところでも、ご説明だったりご指導だったりはさせていただいているところでございます。

そういった活動に係る助成を行いながら、なかなか難しいのが現状ではありますけども、自主財源の確保に向けた取組を引き続き推進していきたいとは思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

まだちょっと質問したいこといっぱいあるんですけれども、すみません、次の質問に移らせていただきたいと思います。

番号２、子育て支援についてです。

現役の産科医、医療関係者の方、市内の産科存続についてをインスタグラムのストーリーズの機能を用いて独自にアンケートを実施いたしました。回答してくださった市内の方々のお声を基に２回目の質問をいたします。

産科医との意見交換の中で、私も産科は存続するべきだという考えが強いんですけれども、産科医の現役のお医者さんと意見交換をさせていただく中で、医師としては、一番大切なのは、やはり

母子の安全なので、市内の産科存続と政治的な意味合いでも重要なのは分かるんですけどという話をしていただいた経緯がございます。それで、私も本当にそうだな、それが一番大切だなというふうに思ったものですから、聞きたいと思います。

糸魚川総合病院での出産、分娩の取扱い自体は、安全なものというふうに認識していてよろしいんでしょうか。何か意見交換されていらっしゃいますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

糸魚川総合病院におきましては、妊産婦への健康管理でありますとか産後ケア、それから産後の訪問等を丁寧に行っておるというふうに考えております。また、総合病院という強みがあって、産婦人科と小児科両方備わっておるもんですから、こういう面からも総合病院の強みを発揮して、糸魚川総合病院については、出産には安全安心だというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

最初にとても大切な部分を確認させていただけましたので、この後の質問に続けさせていただきたいと思います。

私のアンケートに答えてくださった方々のほとんどが、市内で出産していらっしゃる方でした。持病をお持ちの方だったりだとか糸魚川総合病院を利用された方々なので、すごく絶対存続してほしいという意見が多かったんですけれども、持病をお持ちの方にとっては、ほかの診療科もあるというところで安心感が大きかっただったりだとか、後はスタッフの方たちのケアがすごく手厚くて安心だったという声が寄せられております。

そんな中で、産科ということなんですけれども、婦人科自体は、存続について何か議論があるのかというご質問も頂いたものですから、その部分お答えいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

産科についても、今持続できるように努力をしておるんですが、婦人科についても、併せて維持できるように努力しております。もし仮に出産ができなくなっても、婦人科あるいは妊産婦の検診ができるような、そんな体制についてもしっかり対応できるものというふうに期待しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

そうするとちょっと産科だけじゃなくて、婦人科においても同じように存続の可否については、

議論が必要ということですよね。まだ分からない、婦人科は残せるよとも、はっきり今ご答弁いただけない状況ということでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

市の考えとしましては、産科も婦人科も残していきたいということで今努力しております。

したがいまして、こちらが駄目でこちらがいいとか、こっちがよくてもあっちが駄目ということは、今考えておりません。諦めずに産婦人科存続のために努力させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

持続可能な形での存続が必要と考えます。仮に医師が確保できたとしても、２０２４年の改正される医師の働き方改革のタイミングで、再度、存続が危ぶまれると考えますが、それについての対応などは、何かお考えありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

今ご指摘のように、仮に産科医が現状と同じように確保されても、２０２４年の医師の働き方改革によりまして、１年間における医師の残業時間というのは９６０時間に制限されます。

したがいまして、産婦人科医というと夜も昼も、そういう事態があれば勤務が必要なわけで、糸魚川市における出産・分娩を行うのに、１人当たりの医師の残業時間が９６０時間に収まるのかどうか。これについては、糸魚川総合病院では調査しておりますし、市も糸魚川総合病院とそこら辺の情報を共有しながら、それらの対応についても検討することが必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

糸魚川総合病院は、意見交換の中で営利企業ではないので、分娩数というよりは医師の働き方改革による医師の確保が困難になるというところでの存続が今ちょっと危ぶまれてるというふうにお伺いしてるんですけれども、私のほうにお声を寄せてくださった方の中にも、じゃあお医者さん探さなきゃいけないね、私たちも声を上げて、お医者さん探ししてもいいのかなという声を上げてくださった方もいます。

糸魚川総合病院と糸魚川市、それぞれ今医師の確保に向けて尽力していらっしゃると思いますが、そういう市民の方、個々に、例えばそれぞれのつてを伝って探していただいて、情報をもらうとい

うのは、市としては考え方としては、ありなんでしょうか。そこをちょっと教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

市民の方からそういうふうにご心配いただくというのは、ありがたい面もあるし、申し訳ないなという、正直そんな気持ちでおります。糸魚川総合病院で勤務いただく医師につきましては、富山大学との関係もありまして、まずは糸魚川市と総合病院で取り組みたいと思っております。糸魚川市のほうでも、糸魚川出身の医師の方々のネットワークというのがありますので、そういうネットワークについても糸魚川総合病院に情報提供しながら、全体で今取り組んでおるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

市民厚生常任委員会の中の休憩中の報告という形でしたが、上越タイムスにも記事が掲載されたりしましたので、市民の皆様の中でも探さなきゃいけないんじゃないかとか、何かできることはないのかというふうに声出してくださってる方もいらっしゃいます。ただ、今その方向性というか、富山大学の動きと、あと糸魚川総合病院との相談をしながらということでしたので、まだ、探さなきゃといってくださってる方には、まだ頑張ってるのでというふうにお伝えするようにしたいと思います。

産科存続、ぜひしていただきたいと思うんですけれども、もしできなかったときのこともしっかり考えなければいけないと思っています。その中で、ママたちの中からのお声でも、通院、健診はできるようにしてほしいだったりだとか、あと産前産後のケアを手厚く、例えば産後、泊まりでもケアを受けられるようにとか、そういう部分で糸魚川総合病院にも対応いただけないものかだったりだとか、あと行政にも産前産後ケアの拡充について求めるようなお声がありました。それについて、それぞれから何かお考えがあるかをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

健康増進課とすれば、出産から産前産後のケアまでできるように、今、糸魚川総合病院と調整しておりますので、諦めずに取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。　〔教育委員会こども課長　嶋田　猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

産前産後のケアの充実ということでございますが、今年度から糸魚川市の産後ケア事業というこ

とで糸魚川総合病院の助産師さんによります赤ちゃん、また保護者の健康管理であるとか、育児サポートといったものもスタートしております。そういった中で、仮に市外で産まざるを得なくなった場合の中でも、どういったようなケアといいますかフォローができるのか、丁寧な対応を心がけていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

すごくハードルの高い提案だと思うんですけれども、例えば市内出身の産科医の先生だったりだとか、糸魚川に思いのある産科医の先生に開業していただくとか、もしそういう思いのある先生がいらっしゃったときに、市として何か助成をしたりだとか、市内での分娩数自体少ないので、そんな中で開業を検討するってなかなか、自分で経営するというふうになると、なかなか踏み出せない部分だと思いますので、そういう先生がもし現れたときに、市として応援というのは、何かできるものでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今、糸魚川総合病院の産科が非常に今危うい状態であるということは、皆さんご承知かと思っております。そういう中で人口減少であったり少子化の中において、産科というのは、非常に営業的にはちょっと難しい状況があるんではないかという捉え方もするわけであります。

そういう中において、やはりここで生まれて、育てていくという、やはり一つのふるさとをということを考えたときに、大切な位置づけになると思ってるわけでございますので、そういうことを考えたときに採算性が合わないから駄目だということには、してはいけないと思いますので、そういったときには、やはり行政としてはしっかりと連携しながら支えていかなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

医師との意見交換の中で、糸魚川総合病院の中にある産科になると、やっぱり医師の働き方改革で宿直を置くとすると、７人、８人とおっしゃいましたね、結構お医者さんの人数が必要になるんだけれども、例えば個人の産科医という形であれば、医師の働き方改革とは、また別の部分で存続可能なんではないかというご意見も頂きましたので、もしそういう情熱のある産科医の方が現れましたら、糸魚川市としては全力で応援していただければなというふうに思っております。

それでは、次の質問に入らせていただきます。

（２）働きながら育てる家庭への支援についてです。

多様な保育ニーズに応えるために、拡充に努めるというふうにご答弁いただいたんですけれども、何か用意とか算段というのはおありなんでしょうか。今年度どのようにして、保育の幅広くなっていくニーズに応えるための、どういう計画を今年度していらっしゃるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。　〔教育委員会こども課長　嶋田　猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

多様なニーズに応えるためにということでございます。特に働きながらという部分では、様々な、２４時間というわけではございませんが、いつ病気が発生するか分からないといった中で、安心して働き続けられるようにということで、こちらは昨年度からになりますが、病児保育におけます送迎サービスを開始しておりまして、どうしても仕事が抜けられないといったような場合には、保護者への緊急時の対応として、昨年度から拡充をしたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

病児保育の送迎サービス、とても大事だと思います。今年度と、これからに向けての何か準備だったりだとか、計画はありますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。　〔教育委員会こども課長　嶋田　猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田　猛君）

今年度、またこれからということでございますが、まだ具体的なものを今日、今お示しすることはできませんが、様々な方々、多様な保育、家庭での保育とかはありますので、そういったものに対応するべく調査等をしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今のところはあまり計画がないのかなというふうな印象を受けたんですけれども、保育というのは保護者の就労支援の意味合いが大きいと思います。今、糸魚川市では、女性がいろいろな働き方ができるようにと施策がされていますが、女性がフルタイムで働けるような、フルタイムで働いて、なおかつ土・日・祝日にお仕事が入ってしまったときにも、お仕事もできるし、安心して子育てができるという環境の整備が必要だと思うんですけれども、それについてのお考えをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。　〔教育委員会こども課長　嶋田　猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田　猛君）

保育をしながらということで、働き方につきましても様々な働きがあろうかと思っております。そういった中で、例えば遅い時間までということであれば、延長であるとか朝早い時間であれば早朝保育、また、休日保育ということも一部実施してる機関もございますし、またそれ以外にファミリーサポート事業といった中で、それぞれ市民の方から提供会員となっていただきまして、子育てに困っている方々を助けていただくといいますか、支援していただくような仕組みというものも持っておりますので、そういったものを上手に活用する中で、働くことを、また時には休息することも大事かと思っておりますので、働きと休息、生活面を両方バランスよく進められるような形で、事業のほうを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今、課長のご答弁の中で、休息という言葉を言っていただいたので、お伺いしたいんですけれども、これ次の（３）にも通じてくるんですけれども、例えば家庭内で親御さんがお子さんをたたいてしまうだったりだとか、児童相談につながるような案件があった場合に、保護者とお子さんが少し距離を置くことで、保護者の方も気持ちが落ち着いて、子供にとってもいいということもあると思うんですね。

ただ、私が現場の先生などから聞き取りをした中で、やっぱり児童相談の案件につながっていくご家庭は、経済的に困窮していらっしゃるような家庭が多い傾向にあるということをお聞きしました。その中で、先ほどファミリーサポートセンターのお話もあったんですけれども、ファミリーサポートセンターの事業、すごく有効だと思ってます。

ただ、経済的に困窮していらっしゃる家庭の減免の措置などがないんですよね。そういう部分での拡充というのは、これから望めるものでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。　〔教育委員会こども課長　嶋田　猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

ファミリーサポートセンターの事業につきましては、それぞれサービスを受ける側の方から、１時間当たり５００円ということで、ご負担いただいている実態がありますし、今現在、例えば収入が低い世帯につきましては、減免制度といったものがございません。そういったものが、もしこちらのサービス利用をする中で、少し遠慮ぎみになってるというようなことがあるようであれば、減免等につきましても検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

ぜひ前向きにご検討いただければと思います。まだまだたくさん質問したいことがあったんですけれども、糸魚川市においては課題がたくさんあるということも承知しているんですけれども、子供を応援しない社会に未来はないというふうに、また、明石市の市長のお言葉をお借りして、最後の結びにさせていただきたいんですけれども。子供って本当に未来そのものだと思うんですよね。市長からも子育て支援には、協力していくという力強いご答弁を毎回頂いてるというふうに感じておりますし、行政に伝えたお声にも、真摯に毎回対応していただいてるなというふうには感じています。

ただ、予算の分配の仕方だったりだとか、もう少し子育て支援に多く振り分けて、来年度またご検討していただきたいなという、私そういう思いがあるんですけれども、市長のお考えを最後お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

子育てに対しての予算が少ないというご指摘、本当に感じるところがあるとしたら、やはり金額ではなくて制度的に何ができるのか、また施策として何ができるか、そういうところがやはりしっかり欲しいなと。それは、やはりあっての予算だろうと思っております。確かに、よそと比べていくんじゃなくて、一連的に私たちは、やはり子供さんが妊娠されたときから、育てていくまでの間をしっかり支えていきたいなと、バランスよくやっていきたいなと。ここだけよくてもこっちが駄目だったらあれなんですが、そういう形で考えていきたいなと思っております。ですから、妊娠から高校卒業するまでは、しっかりと子供の対応は、行政として、糸魚川市としてしっかり支えていきたいと思っておりますので、本当にいろんな事柄、我々行政としては気がつかないところもあろうかと思います。そういったところをまたいろいろご指導いただければ、我々、それに対して対応していきたいと思っておりますので、ここで生まれて、ここで育ってよかったと思われるような子供さんにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

こども家庭庁の設置で、国からの予算も多くつくことを、私としては期待しておりますけれども、国の予算ありきではなくて、糸魚川市独自の施策としても子供と子供を育てる世帯に対しての支援をお願いしたい、そのように申し上げて、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。再開を２時１５分といたします。